

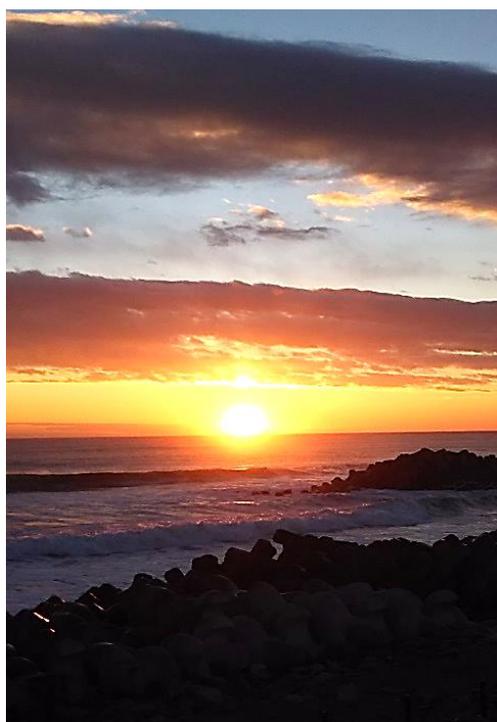


謹んで新年のお喜びを申し上げます

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人 岩手県臨床衛生検査技師会

会長 行森 良一



平成 30 年を迎え新年のご挨拶を申し上げます。今年のお正月は雪も少なく穏やかな年始となりました。皆様におかれましては健やかに新年を迎えられたことをお喜び申し上げます。昨年は安保元会長から技師会を引き継ぎ、駆け足で過ぎた一年だったと思います。今年は少しでも、周辺に配慮した技師会活動ができればと思っています。

さて 2025 年には団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となり、要介護、認知症高齢者が急速に増加すると推定されています。政府は 2025 年度問題として、持続可能な社会保障制度とするために医療提供体制の見直しを開始しました。「病院完結型医療」から患者を地域で連携して支える「地域完結型医療」へと大きな転換が進め

られて、急性期病床を縮小し、回復期・慢性期病床を増やし、更に在宅医療を充実する方向で国は医療・介護の改革を進めています。私たち臨床検査技師もこのような時代背景をしっかりととらえて、それに担う医療人の一員としてこれから進んで行かなければならないと思います。

また、医療法・臨床検査技師法の一部改正が昨年 6 月に成立し、今年の 12 月ごろ施行されることになりました。厚生労働省の「検体検査の精度管理に関する検討会」は昨年 12 月 20 日に開かれ医療機関が自ら行う検体検査の精度管理等の基準を大筋でまとめました。組織の責任者は医師か業務経験のある臨床検査技師とし、検査技師の場合、指導監督医の選任は不要とすることで一致しました。また、精度確保の方法として試薬管理台帳、検査機器保守管理標準作業書（作業日誌）、測定標準作業書（測定作業日誌）の 3 種類の作成と 2 年間の保存を求めることなどがあります。外部精度管理調査を受検した場合は外部精度管理台帳、内部精度管理を実施した場合は統計学的精度管理台帳を追加する。外部精度管理調査の受検、内部精度管理の実施は努力義務とするが、特定機能病院などには義務化するべきとの意見があり、承認要件の見直しを検討しています。厚

(い わ て)

労省検討委員会は今年3月ごろに具体的な精度管理の基準をまとめる予定で、交付から半年程度の周知・準備期間を置いて実施となるようです。今後は精度管理を確保した上での品質保証認証という時代へ変化していくものと思われます。

結びとなりますが、本年も役員一同全力で会務にあたりますので何卒ご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。今年が皆さまにとりまして有意義な年でありますように祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。



平成 29 年度第 4 回理事会 議事録

日時：平成 29 年 12 月 16 日（土曜日）

場所：アイーナ 8 階 801 会議室

出席者：行森良一、畠山秀樹、畠山裕司、川村将史、宮本祥一、高橋一博、岡田進、井上幸男、千葉拓也、千田文江、小野寺絵美、相原淳路

I 報告事項（行森）

- 1、平成 29 年度北日本支部内連絡会議 *平成 29 年 10 月 13 日秋田市にて開催
 - ・北日本支部学術活動、研修会等について
主なところは平成 30 年度の第 7 回北日本支部医学検査学会が 11 月 10・11 日、青森市で、開催され平成 31 年度の第 8 回は山形県で行われる予定。
 - ・学会規程、細則、ガイドラインについて
全国レベルの学会は細則、ガイドラインに合致すれば、大都市圏だけではなく、地方開催もありと考えるが、それなりに収容できる地区であることが必要。北日本支部では仙台、新潟、札幌は開催可能であるが、会場への移動時間、交通アクセスがよくなければならない。展示発表会場は 3000 m²以上とあるので会場が限られる。
 - ・学会長の選出について
担当県の会長等が学会長となっているが、限られた県だけの会長だけが担当するようになるので、日臨技の意向も踏まえて支部内協議し、開催県に限らず、支部の中から選出するのがよいのでは、ということになった。
 - ・学会参加者への扱いについて
日臨技会員への勧誘の意味でも臨床検査技師の免許を持ちながら会員でない方は非会員と考え、他職種の参加については、日臨技関連学会に参加することを歓迎する意味で非会員扱いしない。賛助会員については非会員でよいということになった。
 - ・第 7 回北日本支部医学検査学会について
担当県である青森県技師会より、2018 年 11 月 10 日（土）・11 日（日）の 2 日間、会場：リンクステーションホール青森で開催。テーマは『挑戦と飛躍』、学会長は齋藤浩治氏（青森市民病院）。
 - ・決議事項及び継続事項等について

(い わ て)

北日本支部はエリアが広い為、学術活動や研修会等の参加の為の交通費も時間もかかる。一概に会費を上げれば済むという問題ではないが、日臨技からの助成金の見直しを検討して頂きたい。

支部研修会開催時、部門員になるべく参加してもらおう体制（講師・座長等）をとり部門会議を開催するようにする。

中堅の技師がどこの県も少ない現状から若手の技師をいかにして育成していくか、これからの課題。

・日臨技への要望事項

北日本支部は1道7県と日本地図の約半分を占める広さの地域が1つの支部となっている為、移動費・移動時間の負担が大きい。各役員の打ち合わせや会員が研修会参加した時、参加費に加えて多大な移動費負担も発生することなどを考慮し、日臨技の研修会助成金の見直しを検討して頂きたいと強い要望があった。この事案は昨年の北日本支部内連絡会議でも報告している。

2、岩臨技の中間監査について

10月27日に岩手医大研修室で行い、概ね良好であった。

3、その他

技師会活動に対して、若い人の参加を促すにはどのようにしたらよいか、考えていく必要がある。

II 各事業について

1、総務部

・会員名簿作成について

年内には発送の予定であったが作成が遅れている。名簿の作成は2年に一回行っていた。配布は会則上、必須ではないがもうすぐ新年度の移動、新規採用等あるので年度明けに配布できるよう準備を進める。

2、学術部（畠山秀樹）

・第22回岩手医学検査学会が11月19日（日）宮古市で行われた。

・第67回日本医学検査学会が5月12日（土）・13日（日）に浜松市で行われる。演題締め切りは12月17日となっている。

・精度管理調査について（千葉）

・試料を11月14日に配送し、実施されている。今後の流れは1月15日に各施設の施設別報告書ならびに全体の統計表を日臨技のホームページから閲覧できる予定。2月末に各部門の報告書をまとめたものをCDにして各施設に発送する。3月10日の報告会では各施設の結果を自施設で印刷してきてもらう。

・来年度からの精度管理調査は出来れば、請求書、領収書、見積もり等をWebでやりたい。実際に日臨技では見積もり、請求書、領収書の発行をWebで行っている。岩臨技では文書で行っており発送準備等が大変であり、なるべく文書発送を減らしたい。

・今回の参加施設は54施設であった。参加の申し込み忘れの施設が6施設あったが、今年から試料を買っているのが数に限りがあり、後からの参加を受付することが出来なかった。来年度はメール等で2重のお知らせをするようにしたい。岩手県の参加率は他県と比較して低いので少しでも参加施設が増えるようにしたい。

(い わ て)

- ・今年から参加費 6000 円となったが、その内訳は生化学が 2 濃度で約 2000 円、血液 1 濃度約 1500 円、発送費として約 2000 円となっている。来年度も 6000 円程度になると思われる。
- ・新鮮血の採取は倫理的に問題があるので、来年度以降の血液は新鮮血から加工血に変更したい。他県では加工血に変更しているところもある。加工血の場合、シスメックスの装置が 9 割を占めているので、シスメックスから購入することになると思われるが、今年のデータを見て検討する。加工血の場合、メーカーによってデータが違ってくるので、評価方法を検討しなくてはならない。

3、公益部（川村）

- ・検査と健康展について（検査と健康展 in 奥州）

平成 29 年 11 月 12 日（日）10：00～15：00 奥州市水沢区 コープアテルイにて開催

来場者数 160 名 盛岡地区、中部地区技師会で開催 実務委員 42 名（医師 3 名含む）

無料検査ブース（肺年齢検査、血糖測定検査、物忘れ相談プログラム）、

検査説明相談コーナー（医師 3 名で実施）、健康啓発パネル展示、がん普及啓発活動

臨床検査技師紹介の展示、キッズ専用ブースの設置（バルーンアート、ゆるキャラ、わんこきょうだい「おもっち」、「はっとくん」）

参加者は 160 名と多くの方々に来場していただいた。キッズコーナーで実施した多彩なバルーンをスタッフが作成し配布した。色とりどりのバルーンを持った子どもたちがコープアテルイ内に溢れた。当日の様子が胆江日日新聞、岩手日日新聞に掲載された。感想文については 3 名の方をお願いした。

アンケートに寒い時期にやらなくてもいいのではとあったが、11 月にやっている理由は臨床検査の日に絡めて行っている。他に問題となるようなクレームはなかった。

次回の健康は北部地区での開催の予定であるが、大型バスやテントでの開催も含め、場所、開催方法等を今後検討していく。

4、生涯教育（宮本）

- ・講習会・研修会について

12 月 8 日現在、26 行事が届け出されていて、例年並みに行事登録されている。

後援事業にいわて感染症多職種研究会と ECHO CAMP IWATE 2018 を追加した。

5、事務局（畠山裕司）

- ・第 22 回岩手医学検査学会についての総括（事務局代読）

11 月 19 日（日）、宮古市民文化会館で開催。文化祭などの催物と重なり会場確保に苦労した。

内容は一般演題 11 題、技術セミナー 3 題、公開講演と POCT 機器展示。レスキューフーズの展示を行った。できるだけ会員に残ってもらうように一般演題を最初と最後にした。最後に抽選会を開催し、多くの会員が最後まで残った。

実行委員会は計 4 回行い、最後は会場の下見を兼ねて宮古文化会館で行った。

実務委員 30 名で前日・当日集まってもらい三陸地区一丸となって開催することが出来た。学会当日は前回の学会で賛助会員の扱いで混乱したことから、事務局より賛助会員の一覧をもらい対応した。

ランチョンにてお弁当が余ったが、必要数を把握するのは難しいので多めになった。

(い わ て)

公開講演には一般参加者が10名ほど来場した。三陸地区OBの方が半数くらいであった。学会の運営をスムーズに行うために、会館の舞台担当者と打ち合わせを行った。駐車場が満車になり、遅れてきた人や午後の公開講演にきた方が離れた駐車場に止めることとなり迷惑をかけた。

- ・平成29年10月6日～12月15日までの事務報告事項
- ・検体採取等に関する厚生労働省指定講習会の受講率促進について
岩手県の受講率は56.8%となっている。今後は開催回数や開催場所を継時的に縮小する方向である。来年度は4月と7月に仙台市で行われる予定となっている。
- ・会員施設実態調査並びに会員意識調査実施への協力について
12月11日の時点で、岩手県の回答率は会員施設実態調査38.74%（全国34.66%）、会員意識調査10.02%（全国12.77%）となっている。回答期間は12月31日に延長となった。
- ・日本臨床検査薬協会 プロモーション地区会開催のご案内について
臨薬協では体外診断用医薬品のコンプライアンスの啓発活動を毎年行っている。東北地区では平成29年度は2018年2月19日（月）橋本ビルディング（仙台市）で行われる。
- ・『参議院議員宮島よしふみ 政経セミナー』の開催への協力依頼について
東京で行われるが開催同日、同会場にて行森会長が日臨技の用務あり、出席予定となっており行森会長が対応することとなった。
- ・日臨技からの事務連絡について
前回の理事会から試験的に日臨技からの情報をサイボウズで共有していたが、特に問題ないのでこのまま運用することとなった。

6、その他

- ・各地区活動報告

〈北部地区：岡田〉10月7日に研修会を行った。次回は2月に行う予定。来年度の検査と健康展に向けて準備を進めるが、会場場所が問題になりそう。共同開催ができないので開催方法について今後検討していく。

〈盛岡地区：川村〉盛岡地区として検査と健康展に参加協力できた。1月13日に研修会の予定。

〈中部地区：千田〉検査と健康展を皆様のご協力で開催することが出来た。研修会は2月中旬に行う予定

〈南部地区：小野寺〉研修会は3月に予定している。次年度の医学検査学会に向けて準備を進めていく。前回の研修会では検体採取のシミュレーターを日臨技より借りて実施した。

- ・学術誌の発刊について（行森）

今年度の発刊で4回目となる。精度管理の報告書的なものと、研究内容ではなくても日々の検査内容や技術的なもので総説的なものを掲載する方向となった。

- ・医療現場における職能向上のための臨床検査技師育成講習会（多職種業務を知る）企画担当者研修会について（千葉）

受講者は岩手県で3年の間に講義を集約した内容の講習会をいろいろな職種の方を講師に立てて企画しなくてはならない。管理栄養士や薬剤師、理学療法士等、多職種が関わってくる。技師会としても支援の体制を取って行くことになった。

ご案内

【第2回中部地区研修会】

日時：平成30年2月17日（土）14:00～15:00

場所：県立中部病院2階講堂

会費：日臨技会員：無料 非会員：5000円

日臨技生涯教育点数：基礎20点

内容：「顕微鏡の基礎セミナー」

講師：オリンパスメディカルサイエンス販売株式会社

石田弘樹先生

【第2回輸血・移植部門研修会】

日時：平成30年2月18日（日）13:30～16:00（受付開始13:00～）

場所：岩手医科大学附属病院 循環器医療センター 3階 研修室

会費：日臨技会員：無料 非会員：5000円

日臨技生涯教育点数：専門20点

内容：「アルブミン製剤の適正使用について」

「エバキュアープラスによる選択的血漿交換（SePE）」

「多発性骨髄腫治療における輸血前検査のポイント

～ヒト型CD38モノクローナル抗体 ダラツマブの適正使用について～」

「ジチオスレートール（DTT）キットについて」

「多発性骨髄腫治療薬（抗CD38）治療に対する輸血検査部門の対応」

【第3回北部地区研修会】

日時：平成30年2月26日（月）18:30～19:30

場所：県立二戸病院 地下1階 大会議室

会費：日臨技会員：無料 非会員：5000円

日臨技生涯教育点数：専門20点

内容：「心電図の基礎 検査から読み方まで」

【岩臨技精度管理調査報告会・研修会】

日時：平成30年3月10日（土）13:30～17:00

場所：循環器医療センター 9階 2番講義室

内容：精度管理調査報告

「臨床検査室に求められる品質マネジメントシステム（QMS）について

医療法改正が求めている“検査の品質・精度管理の確保”のついて考える」

講師：オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

清 康一先生

*詳細は岩臨技HPをご覧ください

岩臨技登山同好会山

11月3日文化の日でしたが、検査技師3人と看護師3人・医療社会事業士1人と多職種連携の一環として金ヶ崎駒ヶ岳に登ってきました。当日はほぼ無風快晴で日焼けが心配なくらいでしたが、山は確実に冬に向かっており、木々の紅葉も終わり落葉が一面に敷きしめられ、膝に優しい道が出来上がっていました。

休憩しながら熊と遭遇することなく約2時間で全員登頂できました。頂上からは360度のパノラマが出迎えてくれ、疲れを忘れさせる景色でした。昼食休憩を取り帰りは淡々と下り、躓きながらも転倒することなく下山をし、近くの温泉で汗を流し、筋肉痛を和らげ、リンゴ酢で疲れを取りました。次回日時は未定ですが、室根山か五葉山か氷上山を予定しています。



今回の『つなぐ』は県立中央病院の菅原江介さんです

❖ “つなぐ” ❖

今回、弘前大学の先輩である DPR 株式会社の乙部剛史さんから『つなぐ』を引き継ぎました。県立中央病院の菅原江介と申します。先輩とは大学時代は面識があったのですが、実は就職してからは一度もお会いしたことが無かった(というのも私が昨年度まで宮古病院にいた)ので、今回の『つなぐ』の依頼の連絡の際に今度呑みに行こうというお話になりました。余談ですが岩手にいる弘大 OBOG で集まっていつか OB 会をやりたいなと思っているところです！



さて、私の『つなぐ』のテーマですが、私が大学時代にやった卒業研究と私の所属していた弘前大学医学部医学科社会医学講座の取り組みである「岩木健康増進プロジェクト」について御紹介したいと思います。本当はガールズ&パンツアー(ガルパン)について熱く語って信者を増やしたいな〜と画策していたのですが思い直し、もう少しまじめな内容で行こうと思った結果こうなりました。「岩木健康増進プロジェクト」。弘前市の隣にある岩木町(合併後は弘前市)は人口 12,000 人、名峰岩木山の麓にある農業が盛んな小さな町です。私の講座はこの旧岩木町民を対象(後に弘前市全体が対象にな

(い わ て)

りましたが)にした疫学調査を行い、生活習慣病の原因の解明と平均寿命への影響度、また地域保健活動策の考案・実行を行っています。これが「岩木健康増進プロジェクト」です。健康診断や生活習慣アンケートといったデータを採り解析に使わせてもらう代わりに、地域の皆さんには自分の健康状態の把握や生活習慣を見直す良い機会になるのでとても好評でした。私の卒業研究テーマは『一般農村住民における運動習慣が骨密度に及ぼす影響』でした。母集団を男性、閉経前女性、閉経後女性(骨密度のばらつきを考慮して)の三群に分けて、運動習慣や肉体労働、農作業などの運動機会を持っている人たちが、機会を持っていない、もしくは少ない人たちに比べて骨密度に有意差があるかをデータでまとめたものです。結果は、当たり前ですが運動習慣を持っている人の方が骨密度の成績が良いという結果になりました。リンゴの収穫など農業による労働機会(運動機会)が多い方が多く、意外と平均成績が良かったような気がします(記憶がおぼろげですが)。たった 1000 人程度の分母でしたがきちんと結果をまとめることが出来てとても嬉しかったです。ちなみに、実施した健康調査の内容は、体組成、骨密度、四肢血圧、肺機能、運動機能評価(中学校のときにやるような体力テストのようなもの)、HbA1c、好中球機能、生活習慣アンケートなどでした。それらの調査のほかに、前述したように地域保健活動策の考案・実行ということで生活習慣病予防啓発や健康意識を高めるための活動を行いました。例えばアップル体操です。アップル体操という新しい体操を考案し、実際に町民の方々に実践してもらい体を動かす機会を提供しました。まあ考案したのはプロの方々に私は地域の方々と一緒に体操したくらいなんですけどね。余談ですけどこのなんにでもリンゴと強引に結び付けていくやり方、いかにも青森らしいですよ。

このように様々な活動を行った私達ですが、残念ながら 2017 年 12 月現在平均寿命は男女ともに青森県が最下位です。いつかこのような活動が全体に波及し数字となって結果に現れてくれると良いなと願い、私の『つなぐ』を終わりたいと思います。次回は、同じく社会医学講座で岩プロに参加し共に卒業研究を行った県立久慈病院の高橋沙綾さんにつなぎたいと思います。沙綾よろしくねー☆

～編集後記～

年末年始、皆様はどのようにお過ごしになりましたか？私は休みの半分は日頃のツケが溜まった大掃除に費やしたものの、残りはお酒を飲みゆっくり過ごすことが出来ました。昨年を振り返ると世界情勢の悪化が目立った年だったように思えますが、2 月には平昌冬季オリンピックがあります。日本人、岩手県人の活躍を期待すると共に、近代オリンピックの創設者であるピエール・ド・クーベルタン男爵が掲げた『スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与する』ものとなってほしいものです。最後に今年一年が皆様にとって素晴らしい年でありますように心からお祈り申し上げます。(相)

会報「いわて」第 317 号 2018. 01

一般社団法人岩手県臨床衛生検査技師会

発行人：

会 長：行森 良一

事 務 局：畠山 裕司

編集責任者：相原 淳路

小野寺 絵美

〒020-8505 盛岡市内丸 19-1 岩手医大中検内

Tel.(019)651-5111 内線 3746 Fax.(019)654-8510

<http://www.iwateamt.or.jp/>

会報専用メールアドレス：

kaiho@iwateamt.or.jp